



甲虫 ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 13 (Nov. 1971)

カミキリムシの研究史(2)

草間 慶一

(6) 属の命名者について

1830年以前の属では誰がその属を作ったか確定していないものが多い。特に P. F. M. A. Dejean が "Catalogue de la collection de coléoptères de M. le baron Dejean" (1821) の第1版中で命名した属は、そのカタログ中ではっきり記載しなかったため、彼の設立を認める人と認めない人がおり、今に至るも定説のない属が少なくない。手元にあるカタログ、図鑑、Review その他の論文を参考として、日本産の属で命名者が色々と書かれて来た例を、引用文献と共に第4、5表に示した。

これらの表から見ても、大体の傾向として設立の年代がだんだんと古くなって行くのが多い。Linsley は最近の彼の "Cerambycidae of North America" で、Dejean による設立をノコギリカミキリ亜科とカミキリ亜科で、Chemsak (1964) はハナカミキリ亜科で認め、アメリカ学派は全面的に Dejean 設立を肯定しており、彼等がフトカミキリ亜科について書く場合にも、これを認めるかどうか興味がある。

Geoffroy の属については、前にも述べたが *Prionus* は認められており、*Stenocorus* は廃棄された。その理由を読んでないので何とも言えないが、何か引っかかる所がある。年代を新しい方に変更したのは、Linsley (1962) による *Callidium* であるが、これらに関しては模式種の問題がからむので、(8)で詳しく述べる。

(7) 属の模式種について

ある属を作った時その属の模式種 (type-species, Genotype) という語は不適当) を指定 (designation) すると言う考えは、カミキリではイギリスの昆虫学者 Curtis から始まると考えて良いのではなからうか。Linsley らは 1800 年代初期の Latreille の仕事をも認めているが。

新設された属にその時種が一つしか含まれてない時は、特に指定されてなくてもその種が自動的に属の模式種と認められるが (monobasic), 2種以上含まれている場合には、どの種を指定するかによ

って属の性格の決定に関連するので重要な問題となる。新設された属にかならず模式種を指定しなくてはならなくなったのは、1931年以後である。

1961年の万国命名規約から模式種の指定について、重要と思われる点や問題となる所を抜粋して見る。

(I) 原指定 (Original designation)

ある新しい属を創設するに当り、一つの種が明確に模式種と指定されれば、この種をもって模式種とする。

(II) 単一指定 (Monotypic designation)

ある属が唯一の種をもって創設されたのなら、この種が模式種となる。

(III) 置換名の模式種

もし新しい属名を既存の名称の置換名として公然と提出するならば、両方の属は同一の模式種をもたなければならない。

(IV) 後次指定 (Lectotypic designation)

1931年以前に原著における模式種の指定なしに創設された属に限って、適用する。

(i) 原著に含まれた種の中から、模式種を後で指定してもよい。

(ii) 原著に種がないならば、その属に後で当てた最古参の種の一つを指定してもよい。

(iii) "原著に含まれた種"とは属の創設に当り実際に引証した種に限定する。ただし有効な名称(亜種も変種も型も含む)であるか、シノニムでもよい。

その他後次指定の規約の中からカミキリの模式種決定に重要な関係を持つと思われる項として、

(iv) 他の属の模式種であるという理由は、その種が模式種として指定され得ないことはない。

勧告として次の種を優先するようにと書かれた問題となる所を拾って見ると、

(a) 適切に図示された種

(b) 除去による指定—原著に含まれた諸種の中に、もしも、他の属に移された種があって、適合する種が残された中にあれば、これらに優位を与えるべきである。

第4表 著者による属の命名者の相異 (1) (Dejean 関係)

| 属 | 命名者 | 引用文献 |
|--|--------------------|--|
| <i>Pachyta</i> | Dejean (1821) | West. (1840), Newm. (1840), Chemsak (1964) |
| | Zetterstedt (1828) | Aur. (1912), Wink. (1929), Plav. (1936), Gres. (1951) |
| | Stephens (1831) | Reitter (1912) |
| | Serville (1835) | Muls. (1863), Lac. (1869), Gang. (1881), Pic (1900), Picard (1929) |
| <i>Toxotus</i> | Dejean (1821) | West. (1840), Newm. (1840), Gres. (1951), Dill. (1961) |
| | Zetterstedt (1828) | Aur. (1912), Wink. (1929), Plav. (1936, 48) |
| | Serville (1835) | Thom. (1860), Muls. (1863), Lac. (1869), Gang. (1881), Pic (1900) |
| <i>Obrium</i> | Dejean (1821) | West. (1840), Linsley (1962) |
| | Curtis (1825) | Aur. (1912), Reitter (1912), Wink. (1929), Picard (1929), Plav. (1948), Gres. (1951), Dill. (1961) |
| | Latreille (1829) | Gang. (1881), Pic (1900) |
| | Serville (1834) | Thom. (1860), Muls. (1862), Lac. (1869), Gahan (1906) |
| <i>Purpuricenus</i> | Dejean (1821) | Linsley (1962) |
| | Fischer (1823) | Gang. (1881), Reitter (1912), Picard (1929) |
| | Germer | Aur. (1912), Wink. (1929), Mckeown (1942), Plav. (1948), Dill. (1961) |
| | Latreille (1829) | Gahan (1906), Gres. (1951) |
| | Serville (1833) | Thom. (1860), Muls. (1863), Pasc. (1866), Lac. (1869), Pic (1900) |
| <i>Mesosa</i> | Dejean (1821) | — |
| | Latreille (1829) | Aur. (1922), Wink. (1929), Plav. (1948), Gres. (1951), Dill. (1961), Br. (1961) |
| | Serville (1835) | West. (1840), Thom. (1860), Muls. (1863), Plav. (1866), Gang. (1883) |
| <i>Monochamus</i> (<i>Monochammus</i>) (<i>Monohammus</i>) | Dejean (1821) | West. (1840), [Aur. (1922) nom. nud.] |
| | Guérin (1826) | Aur. (1922), Wink. (1929), Plav. (1948), Gres. (1951), Dill. (1961), Br. (1961) |
| | Curtis (1828) | Reitter (1912) |
| | Latreille (1829) | Gang. (1883) |
| | Stephens (1831) | Picard (1929) |
| | Serville (1835) | Thom. (1860), Pasc. (1866), Lac. (1872), Pic. (1906) |
| | Mulsant (1839) | Muls. (1839, 1863) |
| <i>Acanthocinus</i> | Dejean (1821) | — |
| | Guérin (1826) | Aur. (1923), Wink. (1929), Plav. (1948), Br. (1963) |
| | Stephens (1831) | Thom. (1860), Lac. (1872), Gang. (1883), Pic (1906), Reitter (1912), Picard (1929) |

第5表 著者による属の命名者の相異 (2)

| 属 | 命名者 | 引用文献 |
|---|--------------------|---|
| <i>Stenocorus</i> (<i>Stenochorus</i>) | Geoffroy (1762) | Thom. (1860), Lac. (1869), Gres. (1951), 1954 庵兼, Dill. (1961) |
| | Müller (1764) | Picard (1929) |
| | Fabricius (1775) | Aur. (1912), Reitter (1912), Plav. (1936, 48), Chem. (1964) |
| | Bates (?) | Wink. (1929) |
| <i>Prionus</i> | Geoffroy (1762) | Curtis (1839), West. (1840), Thom. (1860), Muls. (1863), Lac. (1869), Gahan (1906), Reitter (1912), Linsley. (1962) |
| | Müller (1764) | Picard (1929) |
| | Fabricius (1775) | Gang. (1881), Pic (1899), Lameere (1913), Wink. (1929), Plav. (1936), Gres. (1951), Dill. (1961) |
| <i>Pogonocherus</i> | Zetterstedt (1828) | Aur. (1922), Wink. (1929), Linsley (1935), Plav. (1948), Gres. (1951), Br. (1963) |
| | Latreille (1829) | Gang. (1883), Pic (1906) |
| | Serville (1835) | West. (1840), Thom. (1860), Muls. (1862), Pasc. (1866), Lac. (1872) |
| (<i>Pogonochaerus</i>) | Gemminger (1873) | Reitter (1912), Picard (1929) |
| <i>Apomecyna</i> | Latreille (1829) | Aur. (1922), Wink. (1929), Gres. (1951), Br. (1960) |
| | Serville (1835) | Thom. (1860), Lac. (1872) |

(c) 位置の先行—他の全事項が同等であるときには、その著作中において頁と行で先に立つ種が優位を占めるべきである。

(d) 模式種の引用—1931年より前に創設された属の模式種を指定するときには、まずその種のものとの二名称を引用し、さらに、それと相違しているならば現在通用する二名式名称を載せるべきである。またこの種を創設した著作について書史的出典を示すべきである。

カミキリの指定については Chemsak のように Latreille の業績を認めれば、1807 年の *Rhagium* などが最初のものであるが、Curtis からすると *Obrium* Dejean (1821) の模式種として *Cerambyx cantharinus* Linné の 1825 年の指定が最も早いと考えている。またまったものとしてはイギリス産のカミキリ 29 属についての Westwood (1840)

の指定が早い。しかし属の模式種について最大の貢献は Thomson で、1864 年 (一部は 1860) “Systema Cerambycidae” 中で当時知られていた世界のカミキリの属の大部分について模式種を指定したが、彼がフランス人の為か、彼以前のイギリス人による指定は全く無視して採用しなかった。例えば日本に産する属では第 6 表のような工合である。

その数年後 Lacordaire (1869, 72) により補充され、1870 年頃までの属の模式種はほとんど完成した。彼等以後では、Gahan (1906) が印度のカミキリを、最近では Mckeown (1947) がオーストラリアの、Gressitt (1955) が支那のカミキリの模式種について記録しているが、後の二者の模式種の選び方については疑問の点や間違いが所々にある。Gressitt の場合には前記命名法の (IV-C) を重視しすぎた感がある。

次に日本に産する属の模式種について、2, 3 問題のあるものを述べて見る。

一番不思議なのが *Sophronica Blanchard* (1845) で、模式種 *S. carbonaria* Pascoe (1864), Lacordaire 指定 (1872) という事になっている。現在約 190 種を含む大属であるが、属の創立の時およびそれ以前の種が含まれていない事で、Blanchard の原記載を見ていないので確言出来ないが、属を作った時に種がなかった事になり、規約 (IV-ii) にあてはまるのかも知れない。

Rhaphuma Pascoe (1858)

第6表 Thomson と Westwood との模式種の指定のちがい

| 属名 | 模式種 | 指定者 |
|--------------------|--|-------------------------------------|
| <i>Grammoptera</i> | <i>Leptura praeusta</i> F. <i>L. lurida</i> F. | Westwood, 1840 Thomson, 1864 |
| <i>Leptura</i> | <i>L. 4-fasciata</i> L. <i>L. virens</i> L. | Westwood, 1840 Thomson, 1860, 64 |
| <i>Necydalis</i> | <i>Necydalis minor</i> L. <i>N. major</i> L. | Westwood, 1840 Thomson, 1864 |
| <i>Clytus</i> | <i>L. arietis</i> L. <i>Clytus robiniae</i> Forster | Curtis, 1828 Thomson, 1860 |

この属は Pascoe が 1858 年に Dejean の *Rhaphium* (Diptera の属にすでにある) の置換名として提出したもので、*R. placida* を新種として記載したのみで、全く属の記述がない。Thomson は Dejean の仕事は認めず、1860 年に新しく属の記載をしている。(ただし *Raphuma* と誤記)。その為水戸野 (1941), Gressitt (1951), 大林 (1963) は *R. placida* を模式種としている。しかし Pascoe は彼の論文中で *Rhaphium* の置換名であり、この属の模式種は *Clytus quadricolor* Lap. & Gory (1841) であると明記しているので、Dejean を認めるならば命名規約 III により、*Rhaphuma* の模式種も本種でなくてはならない事になる。Gahan (1906) は本種を指定している。今の所私には Dejean がこの属をどの誌上で発表したのか不明であり、また Dejean は *Rhaphium terminale* Dejean として発表してあると推定され、この種は上記種のシノニ

ムと考えられるので、Pascoe の指定が有効か否か問題になり、現在の所いづれが正しいか判定し難い。しかし私は Pascoe の記述を指定と考え、Dejean の業績を認めるか否かにかかわらず、*C. quadricolor* を模式種として良いのではないかと思ひ、大林氏のトラカミキリ類の属名の変更は再考の余地があると思っている。

Glenea Newman (1842) の模式種は *G. delia* Thomson (1864) を Thomson (1864) が指定し、Mckeown (1947) はこれに従っている。Gressitt (1951) は *G. lepida* Newman (1842) を指定。しかし *Glenea* は *Sphenura* Castelnau (1840) (nec Licht) の置換名として提出されたので、その模式種は *Sphenura* を作った時入っていた種でなくてはならない事になる。この点より Breuning (1956) の説のように *Sphenura novemguttata* Guerin (1831) が良いのではないかと思う。

○岩手県で採れたニホンホホピロコメツキモドキ

ニホンホホピロコメツキモドキ *Doubledaya buculenta* Lewis は 1883 年に「肥後」と「伊豆」産の標本に基づいて記載された種類である。この属は元来東洋熱帯に広く分布する属で、日本はその分布地域の中では例外的な北限の分布地域に当る。従って本種も西日本では稀ではあるがかなり広く採集されているが、北日本、特に中部地方以北で採れた標本を私は見たことがなかった。ところが、驚いたことに、岩手県で本種が採集されていたのである。

1♂, 岩手県稗貫郡大迫町立石, 9. vi. 1969, Y. Fujiwara 採集。

体長 15mm ばかりの普通の大きさの個体で、頭部は暗赤色をしている。

この標本は中村七三氏の手を経て私の手許に齎されたもので、採集当時の状況は判らない。貴重な標本を検査する機会を与えられ、それについて報告すること快諾された同氏に深く感謝する。

(東京都世田谷区, 黒沢良彦)

○千葉県銚子の歩行虫

銚子附近は、従来オサムシのいない所として知られていたが、今回 (1971 年 1 月 15 日)、アオオサムシと共に若干の歩行虫類を採集したので報告する。

採集地点は、銚子(C)及びその約 10km 西側の地点、倉橋(K)で、いずれも貧弱な松林より得られた。

アオオサムシ (1♂1♀...C, 3♂3♀...K), オオゴミ (1 頭...C, 4 頭...K), オオスナハラゴミ (1 頭...C), ルイスナガゴミ (1 頭...K), コガシラナガゴミ (1 頭...K), スジアオゴミ (5 頭...C, 3 頭...K), アオゴミ (1 頭...K), オオアトボシアオゴミ (4 頭...K), キボシアオゴミ (5 頭...K), コキベリアオゴミ (14 頭...K), ホシボシゴミ (1 頭...K), ニセケゴモク (1 頭...K), ウスアカゴモク (1 頭...C), フタホシジバネゴミ (1 頭...K), ヤホシゴミ (1 頭...K), ミイデラゴミ (19 頭...K), コクワ

ガタ (1♂...K), アオハナムグリ (1 頭...K)

(横浜市中央区, 奥村 尚)

○コゲチャサビカミキリ蘇鉄の実を害す

農林省横浜植物防疫所新潟出張所の有田昭治氏の御好意によって、同氏が植物検疫の際に発見採集された内外産の甲虫標本を拝見することができた。その中に 1966 年 10 月 12 日、宮崎市、Host ソテツの実なるラベルのついたコゲチャサビカミキリ *Mimecattina meridiana* (Matsushita) 1 頭が含まれていた。

本種の幼虫は、従来サルカミキリに寄生するといわれ、成虫は枯枝に集まることが知られているが、ソテツの実からの発見は、はじめてであると思われる。

有田氏によれば、上記の個体は輸出用のソテツの実の検疫中、穴のあいたものがあつたので飼育したところ、羽化したものであるとのことであった。

標本を検査する機会を与えられ、かつ本小文の発表を慫慂された有田氏に謝意を表する。

(新潟県新潟市, 小池 寛)

○扉温泉でオオトラカミキリを採集

1970 年 8 月 19 日、長野県犀峠の松本側で、路上にあお向けになっていたオオトラカミキリ *Xylotrechus villioni* Vilard 1 ♀ を採集したので報告する。早川広文氏によれば同地では初記録とのことである。

(京都市下京区, 正木 清)

甲虫談話会

会費 (1 年) 500 円, 第 15 号は 2 月末発行予定
投稿締切は 12 月 30 日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園
国立科学博物館動物研究部内
電 (822) 0111, 振替東京 60, 664